# 教　育　評　価　報　告　書

## （平成１３年度着手分）

## 新　潟　大　学　歯　学　部

平成１４年４月

新潟大学評価委員会

## Ⅰ　対象組織の現況

新潟大学歯学部は、国立学校設置法に基づく国立総合大学の歯学部であり、昭和 40 年 4 月 1 日に歯学科１学科からなる歯学教育機関として設置された。設置時は学生入学定員 40 名であったが、昭和 54 年 4 月に入学定員 80 名に変更、その後、昭和 63 年 4 月に入学定員 60 名となったが、平成 12 年度より、入学定員 10 名削減し、現在の学生入学定員は 50 名である。しかし、入学定員 5 名を 3 年次学士編入学生(平成 14 年 4 月 3 年次に編入予定)に振り替えている。

平成 12 年 5 月 1 日現在の学生数は 1 年生 55 名、2 年生 65 名、3 年生 58 名、4 年生 62 名、5 年生 58 名、6 年生 65 名の総数 363 名(定員 350 名)である。

平成 12 年 5 月 1 日現在の教員定員数は 98 名（教授 19 名、助教授 19 名、助手 60 名）で、現員は 95 名（教授 17 名、助教授 16 名、講師 1 名、助手 61 名）となっている。

## Ⅱ　教育目的及び目標

(1) 教育目的

本学部の教育理念・目的は「歯科医学に関する学術を中心に専門分野における学理を深く究め、学際的領域を含め、広い知識と技術を習得した有能な歯科医師を養成し、あわせて歯科医学発展のために指導的な人材及び地域歯科医療に貢献する専門職業人の育成につとめる」ことである。

(2) 教育目標

本学部の大きな教育目標は「個性輝く多様な人材の育成」である。具体的には以下のような多様な人材を育成することを教育目標としている。

1) 患者の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人材
2) 自ら問題を解決できる能力を持つ創造性豊かな人材
3) 独創的な科学的視野をもつ人材
4) 超高齢化社会に対応でき、総合的判断力を身につけた人材
5) 地域医療の貢献・向上につとめる人材
6) 国際社会で活躍できる人材

## Ⅲ　項目別評価結果

### １．アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

ここでは，対象組織における「アドミッション・ポリシー(学生受入方針)」の策定及び周知･公表状況やその方針に沿った「学生受入の方策」の実施状況を評価し，教育目的及び目標の達成への程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

アドミッション・ポリシーの明示と周知に関しては，歯学部説明会，オープンキャンパス，予備校における歯学部説明会においてスライドなどの視聴覚設備を用いて明示するなどの努力をするとともに，平成 11 年度には歯学部案内を改定し，「2002 熱き君に」を作成し，その中でアドミッション・ポリシーをより具体的に解説し，その周知に力を尽くしていることは高く評価される。この資料が誰に，どのように配布されたのかが記載されているとなお良い。前期入学者選抜にも面接を取り入れるのは多大な労力であるが，それはできるだけアドミッション・ポリシーに則した学生を入学させようとする強い意思表示であり，大いに評価される。前期入学者選抜で面接をし，その成果が上がっていることが示せるとなお良い。

入試改革への取組として，新入生合宿研修の際，新入生による歯学部面接試験に関するワークショップを開催し，新入生から指摘された改善すべき点を教授会に報告し，次年度の面接官にも開示，フィードバックすることを行っている点は大いに評価される。このように，さまざまな手段でアドミッション・ポリシーの周知に努力していることは評価される。

**◇改善を要する点・問題点等**

アドミッション・ポリシーを策定し，受験生向けに具体化し，明示する努力をしているとしているが学生募集要綱，入学情報誌，インターネット上での明示はなされていないようなので今後改善する必要があると考える。

特別入学者選抜，編入学制度や転入学の実施方針，方法などもさらに周知する努力が必要であると考える。観点「入学希望者への周知の実施方法に関する評価」は「入学希望者への入試情報周知の実施方法に関する評価」とするのが分かり易く，また，その実施方法

の改善が望まれる。

**◇貢献の状況（水準：７）**

取組は教育目的の達成にかなり努力していることは認められる。しかし，まだ改善の余地もある。

**２．教育内容面での取組**

ここでは，対象組織における「教育課程及び授業の構成」が教育目的及び目標に照らして，十分実現できる内容であるかを評価し，教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

新入生に対しては，歯学部学務委員会委員らによる履修ガイダンスを行い，歯学部教育における教養教育の重要性等を説明しているほか，入学式前後に，学部長，学務委員会委員長，学生生活専門委員が参加する，１泊２日の新入生合宿研修を行い，歯学教育の基本方針などを説明している。このような研修は歯学教育の基本方針の周知に大いに貢献していると評価できる。また，平成 12 年度から導入した新カリキュラムでは社会的要求を踏まえ，新たに歯学部教育理念・目標を明示して，カリキュラムを改定しているので，その成果も期待したい。

講義シラバスは，全講義科目で統一された形式のものを毎年改訂し，そこでは担当講座及び講義概要，授業内容，日程と担当教員名，教科書・参考書などを紹介し，さらに，平成 12 年度からは新カリキュラムへの移行に伴い，シラバスの内容に各授業科目の到達目標ならびに成績の評価法についての記載を加えるなどシラバスの改善に大変努力している。以上のように，シラバスの改善について常に検討していること，シラバスをインターネット上で公開している点は大いに評価される。また，一部の講座の担当科目では独自の講義・実習進行表ならびにプリント教材を作成し，講義・実習に活用しているなど教育内容の充実にも努力している。

（歯学部）

**◇改善を要する点・問題点等**

高校と大学の接続，教養と専門の接続は十分な対策がとられているとは言えず，今後の努力が必要である。講義時間や実習時間数が講座ごとにアンバランスがあり，必要な教育に対する時間数の見直し，教員の再配置や Teaching Assistant の配分を考える必要があろうと自己評価している。教員の再配置は講座の解体などにもつながる問題であるが，それを視野に入れた検討も今後必要になると考えられる。

**◇貢献の状況（水準：７）**

取組は教育目的及び目標の達成にむけて大いに努力している状況であるが，まだ改善の余地もある。

**３．教育方法及び成績評価面での取組**

ここでは，対象組織における「教育方法及び成績評価法」が教育目的及び目標に照らして，適切であり，教育課程及び個々の授業の特性に合致したものであるかを評価し，教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

教育方法の改善のために，Faculty Development （ＦＤ）を開催し，その形態も受動的講義形式のＦＤから，問題解決型のワークショップ形式のＦＤに変え，ＦＤを実のあるものにしようと大いに努力をしていると認められる。歯学部のほとんどの教員が多数のＦＤに参加しているようであるが，どれぐらいの数の教員がそれぞれのＦＤに参加したのかが明示されているとなお良い。歯学部教育改革 FD では基本的な医学教育方法の概念を学び，学生講義を受動的なものから学生参加型の講義，実習への転換をはかっているなどが成果となっている。しかし，一部の教員が教育改革に不熱心であることが指摘されており，今後の改善も求められる。

医学教育ワークショップ，日本歯科教育学会主催の教育ワークショップ，厚生省主催の歯科医学教育ワークショップへ積極的に教員を派遣し，その研修成果を歯学部内で学内ミニワークショップを開催して他の教員に還元している努力も高く評価される。さらに，米国歯科医学教育事情の視察を行って教育方法及び成績評価の改善の努力をしているようで

あるが，米国歯科医学教育事情の視察の成果などが示されているとより良い。

体験学習として 6 年次生は新潟市内近郊の歯科診療を行っている歯科医師を臨床教授とした臨床実習を行い，地域歯科医療の第一線の現場を学び，さらに，臨床教授，学内教授との連絡会，反省会も設け，より良い臨床実習をめざしている実績は大いに評価できる。

**◇改善を要する点・問題点等**

進級判定，卒業判定に関する規程の整備はされているが，個人の成績評価に関しては各授業担当教員に一任され，歯学部内で成績評価の基準が統一されていないことから判定に客観性を欠く点は今後検討する必要がある。

また，特色ある優れた取組が教育方法及び成績評価の改善に結びつき，その成果がでるような方策を今後考えていただけたらと思う。

**◇貢献の状況（水準：７）**

取組は教育目的及び目標の達成のために努力しており，今後の成果に期待したい。

**４．教育の達成状況**

ここでは,対象組織における「学生が身につけた学力や育成された資質･能力の状況や「卒業後の進路の状況」などから判断して，教育目的及び目標において意図する教育の成果がどの程度達成されたかについて評価し，教育目的及び目標の達成の程度を「達成の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

歯学部の教育の達成度を歯科医師国家試験の結果で評価すると，その合格率は平成 9 年度から 12 年度にかけて常に 90%以上であり，全国平均合格率からみても高い合格率で，教育の達成度はかなり高いと言える。一方，教育の達成度はどれくらいの学力，能力の入学者をどれくらいの学力，能力にできたかで計られる面も重要なので，今後はそのような観点からの分析も考慮していただきたい。

学生の成績・進級データベースの中に入学者選抜における事後評価として，推薦入学者の成績追跡調査が含まれており，この調査は入学者選抜の改善に重要である。この調査結

果がどのように解析されたのかも示していただけるとなお良い。また，2 年次に単位を修得できない学生が多く，その理由としては 2 年次に修得すべき歯学専門基礎科目が非常に多いと分析し，カリキュラムを改善し，余裕のあるカリキュラムになるよう配慮した点は評価される。今後の成果に期待したい。

また，卒業後の進路もほぼ卒業生全員が大学院進学や歯科研修医，勤務医のいずれかの路に進み，進路状況からみた教育目的及び目標の達成度も満足できるものと判断する。

**◇改善を要する点・問題点等**

学生の成績は学務係のコンピュータでデータベースとして一括管理されているとのことであるが，それが記録の保存という意味や卒業時における成績順位の決定に使われているぐらいであると，まだそのデータベースは有効活用されているとは言えないので，それを生かす工夫を考えていただきたい。

毎年，学部全体で約 20 名（全学生の約 5%）近い学生が留年しており，その理由が成績不振や進路再考が理由とされているが，この統計では一部の特定の学生が毎年のように留年しているためなのか，不特定の学生が分散して留年しているのかがよく分からない。そのような解析もしていただけたら教育改善の参考になる。

**◇貢献の状況（水準：７）**

取組は教育目的及び目標の達成にむけて大いに努力していることが示されているが，若干の改善の余地もあり，今後の改善を期待したい。

## ５．学生に対する支援

ここでは，対象組織における「学習や生活に関する環境」や「相談体制」の整備状況や「学生に対する支援」が適切に行われているかを評価し，教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

歯学部新カリキュラムではつとめて授業時間を減らし，学生の自習時間の確保につとめているので，学習環境の整備は重要である。そのため，歯学部は図書室を平日夜８時まで

学生向けに開放し，そこには学生用コンピュータを 30 台設置し，自習環境として提供している。また，同様の目的で本学図書館旭町分館も利用でき，これらの施設で自習している学生も多く，目標はかなり達成されていると考えられる。

臨床基礎実習時間内で実習の終わらない学生に対しても，臨床基礎実習の教員用技工室の時間外利用を認めるなど学習環境の整備に尽力している。

生活及び学習に対する学生相談に，なるべく学生と年齢の近い助教授や講師を学生生活専門委員として任命して対応しており，不登校学生の早期発見，成績不振者への指導に大いに役立っている。さらにセクハラ相談員も男女各１名の教員があたり，それらの教員の氏名は学生向けに公開されているし，交通事故などに対応する組織があるなど学生生活環境の整備にも努力している。

**◇改善を要する点・問題点等**

学生の学習に関する施設整備についての取組が成果となっているが，生活に関する施設整備状況，例えば，クラブ活動や休憩施設などについての記載がないので，その点の自己評価についても今後検討して，記載して欲しい。

**◇貢献の状況（水準：７）**

取組は教育目的及び目標の達成に努力していることを示しているが，今後，成果が上がるように努めて欲しい。

## ６．教育の質の向上及び改善のためのシステム

ここでは，対象組織における教育活動等について，それらの状況や問題点を組織自身が把握するための「教育の質の向上及び改善のためのシステム」が整備され機能しているかについて評価し，システムの機能の程度を「機能の状況(水準)」として示している。

**◇特色ある取組・優れた点**

医学・歯学部の教育実績評価に関しては現在のところ，適切な評価法がないが，歯学部では平成 11 年に全教員に対して教育自己評価と，学生による科目別教育評価を行い，平成 12 年１月にミニワークショップ「歯学部教育の問題点とその解決法」を開催し，その結果

を討議し,教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てたことは全国でも例がなく,特に高く評価される。

教育方法及び成績評価面での取組のところでも触れたように，教育方法等の研究研修（ＦＤ）も平成 11 年からは歯学部主催で年４～５回積極的に行っており，それらのほとんどは全教員を対象とした教育改善に関するもので，これらＦＤの形式も，従来の講義スタイルから，ワークショップ形式への転換を試みている点も高く評価される。

**◇改善を要する点・問題点等**

教員の教育活動を評価するために，自己点検評価委員会が設置されているが，現在のところ機能していないらしいので，それが機能し，教育の改善が計られるよう努力することが望まれる。人事においても教育実績を評価して行っているとあるが，人事の決定にどのように活用し，その成果がどのように現れているかを示せるようなことが望まれる。

**◇貢献の状況（水準：７）**

向上及び改善に大いに努力していると評価される。なお，成果がでるよう検討していただけたらと考える。

**７．その他**

その他の特色ある取組･優れた点として，歯学部は平成 11 年度に外部評価委員の書面審査ならびに実地調査による歯学部教育に関する外部評価，さらに，平成 12 年度には文部省の補助により，著名外国人研究者による外部評価も実施している。これらの評価で指摘された事項についても適宜改善をすすめている点は高く評価される。どのように改善されたかが示されているとなお良い。

**◇貢献の状況（水準：７）**

## Ⅳ　総合的評価結果

教育活動に関する取組は，その教育理念にそって教育目的を設定し，その目的を達成するための方策や企画として教育目標を設定しなくてはならないが，歯学部の自己評価書ではこれら，理念，目的，目標の概念が明確に区別されていないようなので，この点は再考の余地がある。しかし，歯学部は教育改善のために積極的に取り組んでいる点が多々あり，また教育活動の自己評価も謙虚に，また厳しく行っているので，非常に好感がもてる。

アドミッション・ポリシーに基づいた入学者の選抜が満足できるものであることは，教育成果としての歯科医師国家試験合格率が高いことからも判断できる。また，入学試験改革の取組にも積極的で，毎年４月に行われる新入生合宿研修の際，新入生による歯学部面接試験に関するワークショップを開催し，新入生から指摘された改善すべき点を教授会に報告し，次年度面接官に開示，フィードバックすることで，より良い面接試験のあり方を模索している点で大いに努力していると評価できる。

教育内容面では歯学教育の一般的問題点，1)記憶教育に偏った過密なカリキュラム，2)全体を見通したカリキュラムの調整や評価の欠如，3)講座間の壁，4)臨床技能能力の低下，5)教員の教育能力の向上の取組の不足などを改善しようと，歯学部教育カリキュラムの大幅な改定を行い，平成 12 年度入学生より実施している。また，講義シラバスは，内容の他に，科目の到達目標，成績の評価法なども含め，それを毎年改善し，インターネット上で公開し，学生が自ら進んで学習し易くなっている。

教育方法及び成績評価を改善するためにＦＤを年数回開き，その形式も問題解決型のワークショップ形式に変えたりして，ＦＤの有効利用とそれによる教育方法及び成績評価の改善に大いに努力している。特に１泊２日の合宿研修方式の医学教育ワークショップや日本歯科教育学会主催の教育ワークショップ，厚生省主催の歯科医学教育ワークショップへ教員を派遣し，これらワークショップに派遣された教員は歯学部内で学内ミニワークショップを開催し，そのフィードバックに努力している。また，新たな教育方法の模索のために平成 12 年度には米国歯科医学教育事情の視察を行っている。

教育の達成状況を歯科医師国家試験合格率でみると常に 90%以上を保っており，全国平均を上回っている点からもその達成状況は高いと考える。学生の学習環境の整備にも努力し，歯学部図書室を平日夜８時まで開放し，そこでの学生用コンピュータ（30 台設置）の利用も可能になっている。

（歯学部）

教育の質の向上及び改善のために平成 11 年に行った教員個々の自己評価と学生による授業評価はその実行だけでも特筆すべきもので，大いに評価される。また，それらの資料に基づいたミニワークショップ「歯学部教育の問題点とその解決法」を開催して，それらを活用しようと努力している点も大いに評価する。今後は歯学教育のさまざまな問題点の把握とともに，それらの改善のためのシステムを作り，それを機能させる努力を行って頂きたい。

## Ⅴ　評価結果の概要

### １．項目別評価の概要

#### １）アドミッション・ポリシー(学生受入方針)

アドミッション・ポリシーの明示とその周知に努力しているが，まだ，改善の余地がある。前期入学者選抜にも面接を取り入れている点は優れた取組である。その成果の検討が今後必要になる。

#### ２）教育内容面での取組

歯学部教育理念・目標に沿ったカリキュラムの改定をし，講義シラバスの改善にも大変努力している。しかし，高校と大学，教養と専門の接続は十分とは言えず改善の余地がある。

#### ３）教育方法及び成績評価面での取組

ＦＤを多数回開催し，教育方法の改善に努力をしている。しかし，ＦＤがどのような改善に結びついたかの検討が不十分である点や一部の教員が教育改革に不熱心である点など，今後の改善も求められる。成績評価に関しては各授業担当教員に一任され，その基準が統一されていないことは今後検討する必要がある。

#### ４）教育の達成状況

歯科医師国家試験の結果で評価すると教育の達成度はかなり高いと言える。しかし，毎年，学部全体で約 5%近い学生が留年しているのでその分析は必要である。

#### ５）学生に対する支援

学生の学習環境を整備しようと努力しているが，生活環境の整備にも配慮の余地がある。

#### ６）教育の質の向上及び改善のためのシステム

平成 11 年に全教員に対して教育自己評価と，学生科目別教育評価を行ない，ミニワークショップを開催し，その結果を討議し，教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てたことは全国でも例がなく特に高く評価される。しかし，教員の教育活動を評価するための自己点検評価委員会は設置されているが，機能していないらしいので，その改善が望まれる。

### ２．総合的評価の概要

教育活動に関する理念，目的，目標の概念が明確に定義されていないので再考の余地がある。しかし，教育改善のために積極的に取り組み，教育活動の自己評価も謙虚に，また，

厳しく行っている。アドミッション・ポリシーの周知とそれに沿った学生受け入れに努力しているが，まだ改善すべき点はある。教育内容面ではいくつかの歯学教育の問題点を改善しようとＦＤを年数回開催したり，医学教育ワークショップなどへ教員を派遣するなど努力をしている。教育の達成状況も高いと考える。教員個々の自己評価と学生による授業評価の実行は大いに評価される。今後は歯学教育のさまざまな問題点の把握とともに，それらを改善するためのシステム作りとそれを機能させる努力を行って頂きたい。